

《図書館からのお知らせ》

☆スタッフ紹介

後期委員会の中心メンバーである
委員長、副委員長、スタッフを紹介します。



委員長 食物調理科3年B組 窪川愛結さん

皆さん、こんにちは。前期に引き続き、後期委員長になりました窪川です。前期企画展の「推薦図書&しおりコンクール」はどうでしたか？ 後期企画展も、皆さんに図書館へ行きたい！と思ってもらえるような内容を考えて行っていきます。企画展の際には、「図書委員会だより：Lメール」でお知らせしますので、楽しみにしてください。

副委員長 家政科2年C組 川尻真代さん

後期副委員長になりました川尻です。後期には、図書委員会のビックイベントである企画展があります。企画展を通して少しでも図書館の利用が増えるような楽しい内容にしていきたいです。今年度の先生方の推薦図書のコーナーや図書委員の推薦図書を参考に1冊でも本を借りてもらえれば、皆さんの心に残る本と出会いがあると思います。私も実践していきたいです。どうぞよろしくお願ひいたします。

スタッフ 家政科1年C組 伊藤紅さん

スタッフとなりました、伊藤です。図書委員の仕事は初めてですが、早く仕事を覚えて、全校生徒の皆さんのために頑張っていきたいと思います。後期は企画展があるので、委員長、副委員長を少しでもサポートし、委員の皆さんと協力して大成功と胸を張れるように取り組んでいきたいです。そして、私は小説が好きなので、面白いと思った本を紹介していきたいです。どうぞよろしくお願ひいたします。

☆あなたは4月から何冊本を読みましたか？

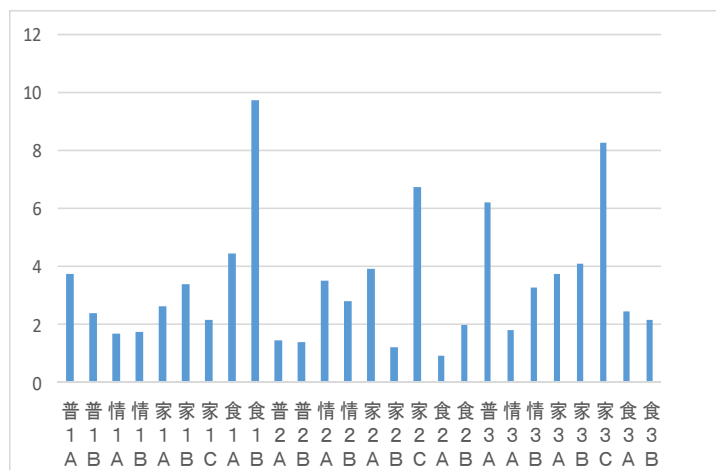
あなたは今年何冊目の
本を読んでいますか？
今年も残り少なくな
ってきました。

読書量コンクールの

- 第1位は **食1B**
- 第2位は **家3C**
- 第3位は **家2C** です。

冬休みを利用して
本を読んでください。

クラス対抗読書量コンクール (11月まで)



私の読書歴～乱読のすすめ～栗本校長先生

小さい頃から、新しいおもちゃはなかなか買ってもらえませんでした。本だけは沢山与えてくれた親のおかげで本好きになったようです。感謝しています。

本を読むことが本当に好きになったのは、思いおこせば、やはり高校時代だったと思います。当時は岩波新書が確か170円くらいで買え、その後どんどん値が上がり今では800円、900円になっています。高校生の頃は夏休みに新書を1日に1冊のペースで何冊読めるかを友だちと競った(?) こともありました。当時は乱読で、時代を反映してか、理系であったにもかかわらず、人文系・社会科学系の本が多かったように思います。井上清の『日本の歴史』が最初に読んだ新書だったと記憶しています。教科書で習って持っていた自分の世界観・歴史観を大きく変えるようなショックを受けました。今思いおこせば、マルクス主義全盛の時代でもあり、唯物史観で書かれた古典的な歴史本でした。

その後は、時代を反映してか、「生きる意味」とか「人生とは？」というような、決して見いだせぬ解答を求め、少々背伸びをしていたのでしょ。特に、大学時代には、哲学分野、政治分野の読書傾向になり、おもいきり読み漁りました。いわゆる文学作品を読むこと自体、時間がもったいなく感じる一時期もありました。この時期に一番沢山読みました。

色々な本との出会いを経て、教師の道を歩き始めた頃、村上春樹の本に出会いました。有名な作品はかなり読みましたが、最初は何を手にとったか、『羊をめぐる冒険』か『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』のどちらかであったと思います。『羊をめぐる冒険』は不思議な世界を感じる作品で、色々な解釈ができるという意味では、今、再読するとおもしろいかもかもしれません。『世界の～』は、2つの話が同時進行していく構成が新鮮でおもしろい！ いずれも、それまでに味わったことのない世界を教えてくれたノーベル文学賞に最も近いと言われる村上ワールドの初期作品です。他には、書のタイトルは忘れましたが、アイルランドのアイル島にあるシングルモルト（お酒の話で恐縮ですが）の蒸留所をめぐる写真入りの旅行記など、彼の趣味にまつわる随筆もおもしろく読んだ記憶があります。少し前になりますが『1Q84』は、1・2・3すべてを発売されるやいなや読みました。構成は『世界の～』と同様に2人の主人公の話が交互に展開されるのです。ワクワクしながら次の作品を期待させる発売計画も実にウマイ(?)。そして最新作の『騎士団長殺し』は修学旅行前には読み終えました。村上ワールドのあらゆる要素が凝縮されているので、まだ読んでいない人にはお薦めの本です。

近いところでは、エンタテインメントの中で一番のお薦め作家である東野圭吾の『危険なビーナス』や中山裕木子の『会話もメールも英語は3語で伝わります』、内田樹の『街場の天皇論』、小林武彦の『DNAの98%は謎』等を買って込んだので、ゆっくり読書を楽しむ予定です。

事ほど左様に、未だ乱読の域を出ず、ある時はミーハーに、ある時は哲学者ぶったり、ある時は評論家になったり、知ったかぶりをしながら読書できるこの幸せがこれからも続けられることを願っています。皆さんも、まず、図書館に行って本を1冊手に取り、読んでみてください。